

1. <施策の概要>

基本構想	活力あふれ魅力ある学研都市のまちづくり	統括課	事業部・都市整備課
基本計画	道路・公共交通		
施策	公共交通	関連課	
方針・目標等	◆路線バスなど公共交通の拡充 ◆公共交通の利便性向上 ◆都市拠点や京都・大阪・奈良への移動が容易		
実施内容	◆道路網・鉄道網の整備や充実に係る国・府や事業者への要望 ◆地域コミュニティバスの実証運行		

2. <指標の設定>

①	重点	指標	単位	他団体比較		算式・引用等			
				団体名	実績/年度				
①	○	精華くるりんバス年間乗降客数	名			都市整備課調べ			
②	○	公共交通に対する満足度 ※総合計画策定に向けた住民意識調査項目	%			企画調整課調べ			
③		精華くるりんバス乗車密度	名/km			都市整備課調べ			
④		バス住居カバー率	%			都市整備課調べ			
⑤									
				H22(実績)	H23(実績)	H24(実績)	H25(実績)	H26(試算)	H27(試算)
①	目標			-	-	-	75,600	75,000	75,700
	実績			74,529	72,141	75,223	69,752		
②	目標			-	-	-	-	-	-
	実績			-	45.9	-	-		
③	目標			5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00
	実績			4.15	4.09	4.33	4.45		
④	目標			100	100	100	100	100	100
	実績			97.8	97.8	98.1	98.2		
⑤	目標								
	実績								

3-1. <指標から読み取れる成果と課題>

<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年6月議会で採択された学研都市病院への試験運行ルートを精華町地域公共交通会議及びその専門部会において議論し、運行したものの、利用者増とはならなかった。 ・乗車密度は、始点から終点まで平均して常時バスに乗車している人数であり、乗客が乗車した距離を実車で走行した距離で除した数値であり、区間距離が長いバス停で乗客が増加した場合には、数値が上昇することとなり、精華くるりんバス年間乗降客数とは比例しない。 ・バス住居カバー率が高い数値で推移しているものの、公共交通が運行していない地域への対応を検討する必要がある。

3-2. <住民ニーズ等を踏まえた課題・他自治体の取り組みから学べる点>

<ul style="list-style-type: none"> ・限られた予算の中で実証運行している状況の中でも、精華くるりんバスへの利用者からの要望は絶えず、公共交通のあり方を幅広く検討する必要がある。
--

4-1. <施策を構成する事業>

	重点	部 門 ／事業名 ／種別／決算書説明頁	事業費(人件費含む)／事業費のみ／事業費一財 <単位：千円>					
			H22(実績)	H23(実績)	H24(実績)	H25(実績)	H26(予算)	H27(試算)
1		都市整備課	1,999	2,093	2,108	2,464	2,493	2,493
		交通網整備に係る一般経費	190	219	209	182	211	211
		一般事業 167	190	219	209	182	211	211
2	○	都市整備課	33,443	35,059	32,604	36,514	39,086	39,086
		コミュニティバス実証運行事業	27,645	27,340	27,154	30,428	33,000	33,000
		一般事業 169	16,786	17,842	21,235	23,556	33,000	33,000
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								

4-2. <施策を構成する事業の成果と課題>

・精華くるりんバスの利用者は利用促進のための啓発活動などによる周知を行ってきた結果、平成25年4月から7月末までの利用者数は1日平均215人で、平成24年度実績210人を上回る数値であった。一方で平成25年8月から実施した学研都市病院への試験運行以来、利用者は減少した。結果、平成25年度の利用者は平成24年度の比較して約5,500人減少した。

・精華町地域公共交通会議及びその専門部会において、平成24年6月議会で採択された学研都市病院への試験運行ルートの継続判断基準及び時期について、利用状況を把握する中で議論を行うことができた。

5. <施策の今後の方向性>

・精華くるりんバスの運行定義・目的などを踏まえ、これまでの実証運行を検証しながら、利用者のニーズの把握に努め、町全体の公共交通のあり方について議論を行う。

・広報などによる周知や感謝祭の実施などによるPRを継続し、精華くるりんバスの更なる利用促進を図る。